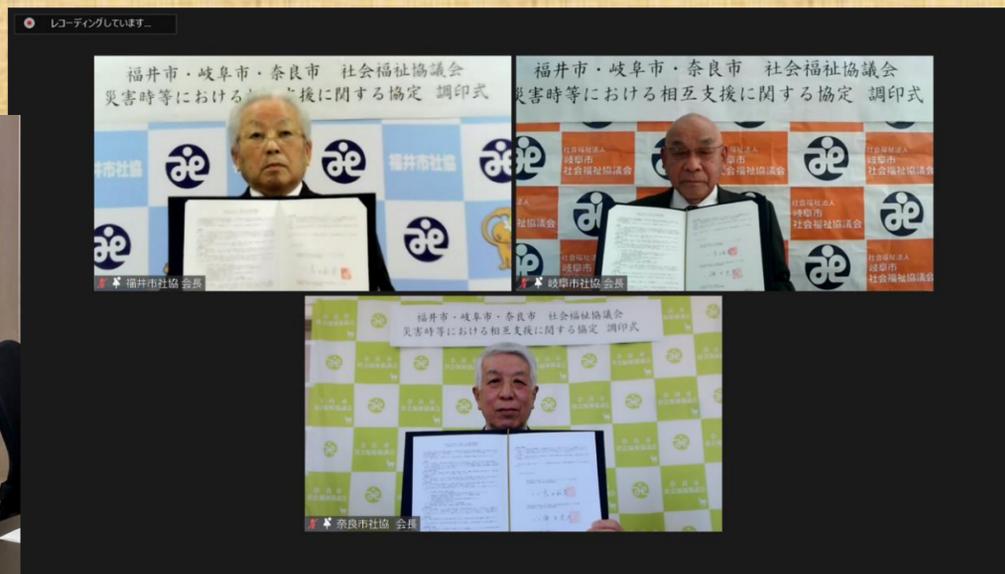


令和4年2月28日（月） 福井市・岐阜市・奈良市 社会福祉協議会 災害時等における相互支援に関する協定書調印式を オンラインにて行いました



三市社協会長
福井市 吉田会長（左上） 岐阜市 神田会長（右上）
奈良市 福井会長（中央下）

近年、激甚化する災害において、災害ボランティアの活動は被災地の早期復旧・早期復興の大きな力となっています。

その災害ボランティアと住民ニーズをマッチングさせる役割を担う「**災害ボランティアセンター**」は、全国的に社会福祉協議会が運営するケースが多く、奈良市でも協定に基づき、奈良市社会福祉協議会が開設・運営をすることになっております。しかし、職員自体の被災が想定されることや、コロナ禍の影響で、県外からの応援を受けることにも慎重にならざるを得ないなど、災害ボランティアセンターの運営にあたっては大きな懸案事項がありました。

そこで、当会では災害時に備える取組として、令和2年度に、倉敷市と高知市の社会福祉協議会との間で三市協定を締結し、災害時のみならず、平時においても研修等を通して相互の関係性と連携力を強化しております。

さらに、奈良市において災害時の高い「**受援力**」を獲得するためには、市の西側に位置する自治体だけでなく、東側に位置する自治体とも協定を締結し、奈良市を中心とした受援ネットワークを構築する必要があると考え準備を進めてきました。

その協定先として、同時に被災する可能性が低く、かつ迅速に対応できる距離にある中核市自治体として、福井市と岐阜市を選定し、この度、令和4年2月28日（月）「災害時等における相互支援に関する協定」を締結いたしました。実施方法は、コロナ感染拡大に伴い**オンライン（ZOOM）**を活用し各拠点を結びました。「**災害時等**」ということで、平時から様々な連携を含めて顔の見える関係性を築き関係性を深めていくことを確認しました。

- 締結日時 令和4年2月28日（月）午後2時～午後2時40分
- 出席者 社会福祉法人福井市社会福祉協議会 会長 吉田 敏貢様 他福井市社協職員様
社会福祉法人岐阜市社会福祉協議会 会長 神田 定夫様 他岐阜市社協職員様
社会福祉法人奈良市社会福祉協議会 会長 福井 重忠 他奈良市社協職員
- 来賓 奈良市長 仲川げん様（ビデオメッセージ）
奈良県社会福祉協議会 常務理事 中 幸司様



調印式に引き続き、研修会を実施。 学びを深めるとともに、3市社協の職員が交流し、 これからの連携強化に向けた第一歩を踏み出しました。

～被災者に提供できる「支援の幅と可能性を広げる」ために～

研修会ではまず、全国社会福祉協議会在職時に、数多くの被災地を支援されてきた園崎秀治さんを講師にお招きし、「災害時における相互応援の意義」をテーマに、お話をお伺いしました。

★主なポイント

- ・ ICTの活用による情報発信・情報共有の重要性
→ 上手くいくかが支援の円滑さに直結する。

- ・ 外部支援を活かす地域の「受援力※」
→ 高めることが被災地の復興を早める。

※「受援力」＝災害時に外からの支援を地域で受け入れる環境・知恵などのこと

- ・ 「被災者中心・地元主体・協働」を原則に、多様な主体が、それぞれの持つ制約を超えて、役割を明確にして進むことが必要。
→ 被災者に提供できる「支援の幅と可能性を広げる」

研修会

第1部 講演
15:05～16:05

第2部
グループトーク
16:05～16:45

発表・まとめ
16:45～17:00

グループトークでは、福井市・岐阜市・奈良市 3市社会福祉協議会の職員が交流&意見交換を行い、今後の連携において重要となる顔の見える関係づくりの第一歩を踏み出しました。

「災害ボラセンの立ち上げ経験が複数あるので、またなんでも聞いてください」

「同様の取り組みを他市とも十数年続けていて、職員の人となりがわかるようになりました」

「（災害時の支援体制整備について）外国人支援の団体とも一緒に進めたいと考えてます。また知恵を貸してください」

「福祉と防災の連携については、まちづくり協議会の活動に両方の視点を盛り込んだアプローチを行っていますよ」

「●●事業、うちはシステムを使って進めてます。またいろいろとお伝えしますね」

「コロナが収まれば、是非対面で会って連携を深めたい」 などなど有意義な時間となりました♪

